

第 3 分 科 会

分科会テーマ

「連携でつくる運動部活動」

研究発表

- ◆ 渡 邊 譲 新潟県中学校体育連盟 研修部長
新潟市立金津中学校

「スポーツマンシップ教育で育む子どもたちの資質や能力」
～学校教育活動との関連・連携による運動部活動の活性化～

- ◆ 片 山 敬 太 山梨県小中学校体育連盟 研究部研究委員長
南アルプス市立櫛形中学校

「運動部活動における学校と地域社会の連携」
～山梨県における部活動指導員の有用性について～

紙上発表

- ◆ 安 田 洋 章 岡山県中学校体育連盟 副理事長
岡山市立岡山後楽館中学校

「岡山県における地域部活動の推進に向けて」

指導助言者	(公財) 日本中学校体育連盟	副会長	田中	節
	岡山県中学校体育連盟	会長	森	章博
司会者	岡山県中学校体育連盟	理事長	山口	憲明
運営責任者	山口大会実行委員会	運営部員	土田	淳一
(記録)				

スポーツマンシップ教育で育む子どもたちの資質や能力

～学校教育活動との関連・連携による運動部活動の活性化～

新潟県中学校体育連盟 研修部長

新潟市立金津中学校 渡 邊

譲

〈提案要旨〉

本県では、少子化による生徒数の減少をはじめ、教員の競技専門指導者の減少、専門外の顧問による指導の負担増加、教員の多忙化など、運動部活動にあたって様々な問題が山積みしている。また、新学習指導要領全面実施により、部活動の位置付けが示され、生徒の自主的・自発的参加により行われる部活動が求められている。部活動が学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意し、持続可能な魅力ある運動部活動を推進していくための本県の取組を提案する。

1 はじめに

新潟県は、本州日本海側に位置し、2007年に新潟市が政令指定都市に指定されたため、本州日本海側初の政令指定都市がある県となった。面積は広く、北と西に折れ曲がっており、山や峠が多く立ち並んでいる。地理的要素の違いから、上越地方、中越地方、下越地方、新潟市の4地域に大きく分けられる。総人口2,199,746人（令和2年10/1現在）で、20市、6町、4村で構成されている。新潟県中学校体育連盟は、新潟市単独を含め4ブロック、19支部、230校で構成されている。少子化による生徒数の減少に伴って、5年前から6,638人減の53,720人、1校あたりの生徒数は、20人減の234人と年々減少傾向になっている。今後も、このような傾向が続いていくことが予想される。

新潟県中学校体育連盟研修部の主な活動内容は、専門委員会及び新潟県中学校体育連盟研究大会の開催と日本中学校体育連盟研究大会への参加であり、県研究大会は3年に一度開催し、新潟県中学校体育連盟に加盟する中学校の体育・運動部活動指導者が目指す方向性について、日頃の実践研究の成果を発表し、当面する中学校体育スポーツの振興及び競技力・指導力向上についての研究協議や情報交換を目的としている。

2 令和3年度 県中体連 研修部の活動から

(1) 令和3年度 県研究大会の企画・運営

令和3年の第9回県研究大会は、「教育課程との関連・望ましい運動部活動のあり方」をテーマに開催された。学校教育が目指す生徒たちの望ましい人格形成や生きる力を育むために、学校の教育活動において、生徒の多様な学びの場としての教育的価値の高い部活動がどうあるべきか、また、生徒はもちろん学校や地域にとって魅力あるものにするために、それを運営する指導者に必要な資質・能力や心構えについて、講演会や実践発表、情報交換をとおして、自らの行動変容を促し、各校で持続可能な実践につなげていくことを本研究大会で企画・運営した。

(2) 「スポーツマンシップ教育の部活動導入」を提案

○提案理由

これからの運動部活動は、指導経験等が多様な顧問であっても、そこに参加するすべての生徒に「スポーツマンシップ」を身に付けさせることのできる活動に変わってこそ、次代の子どもたちに選ばれる持続可能なものになる。すべての生徒に必要な資質・能力を育むための、これからの部活動指導を見つめ直す視点として、運動部活動における「スポーツマンシップ教育」の導入

を提案した。

○「スポーツマンシップ教育」により育む資質・能力とは？

運動部活動は、人格の完成に資する教育的価値の高い場である。生徒は、自らの目標に挑戦する過程で、自分の弱さに打ち克つことや切磋琢磨できる仲間をつくり、絆を強く結ぶことを学び、そのかかわりの中で心身ともに大きく成長する。この経験で身に付けた資質・能力は生徒にとって真の「生きる力」となり、これからの社会をたくましく生き抜くための礎となる。

スポーツマンシップ教育では、スポーツマンシップを「Good Gameを実現しようとする心構え」として捉え、「自ら挑戦する勇気」「全力を尽くす覚悟」「他者への尊重」の3つの視点から構成する。（出典元：「スポーツマンシップバイブル」 日本スポーツマンシップ協会 代表理事 中村聡宏 著）この3つの視点を達成するための資質・能力を身に付ける取組例を、それぞれの視点に設定した。（下図参照）

各校運動部において、この視点をバランスよく取り入れた活動を部員と指導者が一体となった「実践→振り返り及び調整→再実践」のサイクルで実践し、一人も取り残すことなくすべての部員に必要な資質・能力の育むことを目指す。



○「スポーツマンシップ教育」の実践例

* 以下に各校運動部におけるスポーツマンシップ教育を行う際の実践例を紹介する

手順1

3つの視点の取組から、部全体または個人が必要なものを選択して実践する。

- ① 3つの視点からバランスよく選択する。
- ② 年間活動計画に位置付けながら、確実に実践する。

手順2

すべての部員が取組について振り返ることのできるミーティングを定期的に行う。

- ① 時期…毎月・毎週、大会・練習試合後など
- ② 内容…ア 自己の取組状況の振り返り
イ アをもとにした成果や課題、今後の取組をどのように調整していくかをすべての部員がアウトプットする（ICT活用が効果的）

手順3

顧問はミーティングの内容を事後の部活動指導に生かし、部員の成長をより確かなものにしていく。

- ①各部員が調整・設定した取組が実践できるような場の工夫（部員とともに考えることも効果的）
- ②部員の活動状況及び自己の指導に対する評価と振り返り（ICT活用が効果的）

(3) 令和3年度 県研究大会概要（WEB開催 参加対象者：県内部活動担当者）

○講演会

演題「スポーツマンシップを考える」

～運動部活動を通して一生を愉しむ人間力を育む意義とは～

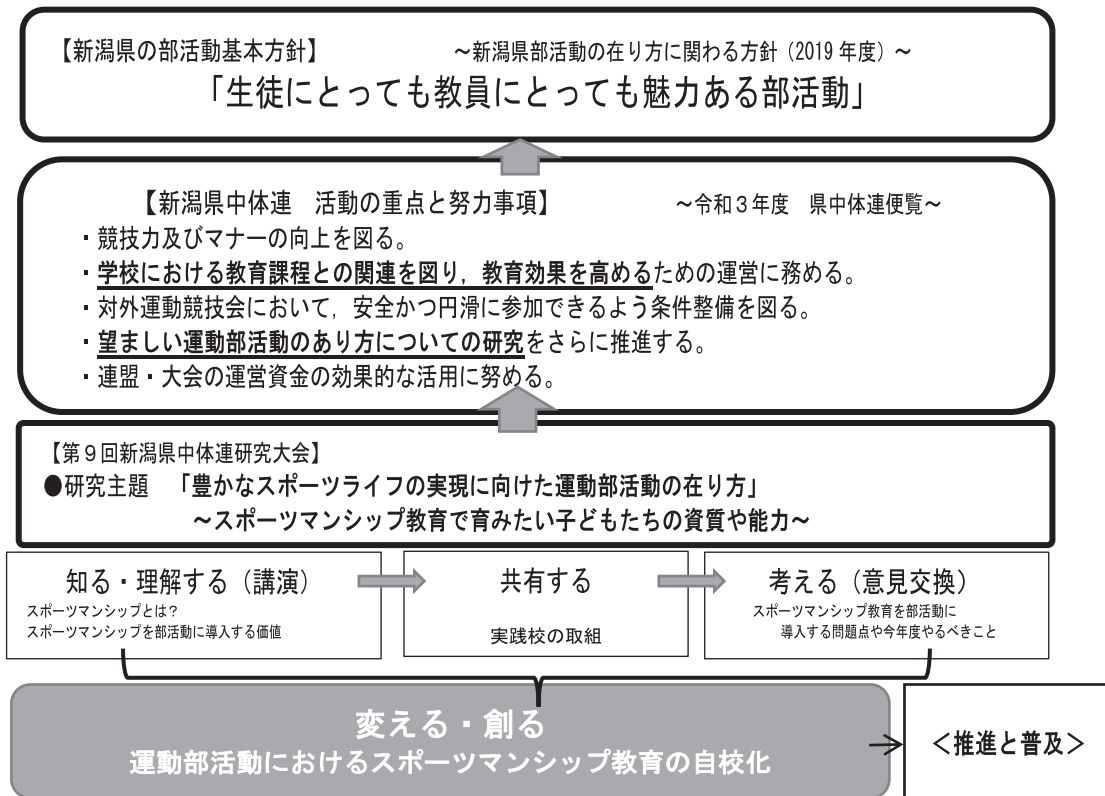
講師 一般社団法人 日本スポーツマンシップ協会 代表理事長 中村 聡宏 氏

○意見交換会 「スポーツマンシップの理解を通して、今後実践したいこと」

- ・実践校の取組紹介 「新潟市立白新中学校の部活動運営方針から」
- ・参加者による意見交換

視点 スポーツマンシップ教育を部活動で導入する上での問題点や課題
各校運動部が今年度挑戦したいこと・やるべきこと

(4) 令和3年度 県中体連 研究デザイン



3 今後の推進と普及

本連盟の研究は、3年計画で進めている。第1期は、全県に運動部活動における「スポーツマンシップ教育」の導入を提案した。第2期は、各校にスポーツマンシップ教育の指導計画立案と実践を推進する。また、全県から第1次実践推進校（団体競技）を指定し、推進校の取組や実践報告を全県に配信し、一層の普及を図る。第3期は、第2次実践推進校（個人競技）を指定し、全県に配信するとともに、研究最終年として、研究結果のまとめを全県に配信する。これらの取組をとおして、本県の持続可能な魅力ある運動部活動指導および運営につなげていく。

○今後の研究計画

期	年度	研究大会・研修部会等	内 容
1	令和 3年度	第9回県中体連研究大会 第38回日本中体連研究大会 山口大会	スポーツマンシップ教育の指導計画立案 ※日本中体連の研究発表 「県中体連の研究取組発表」
2	令和 4年度	研修部会 第2期研究結果 中体連会報掲載 中体連HP掲載	スポーツマンシップ教育の指導計画実践→検証・修正 第1次（団体競技）実践推進校の実践と報告 ※実践報告の配信（中体連HP）
3	令和 5年度	研修部会 第3期研究結果 中体連会報掲載 中体連HP掲載	スポーツマンシップ教育の指導計画実践 第2次（個人競技）実践推進校の実践と報告 ※研究結果のまとめ・実践報告の配信 （中体連HP）

運動部活動における学校と地域社会の連携

～山梨県における部活動指導員の有用性について～

山梨県小中学校体育連盟 研究部研究委員長
南アルプス市立櫛形中学校 片山 敬太

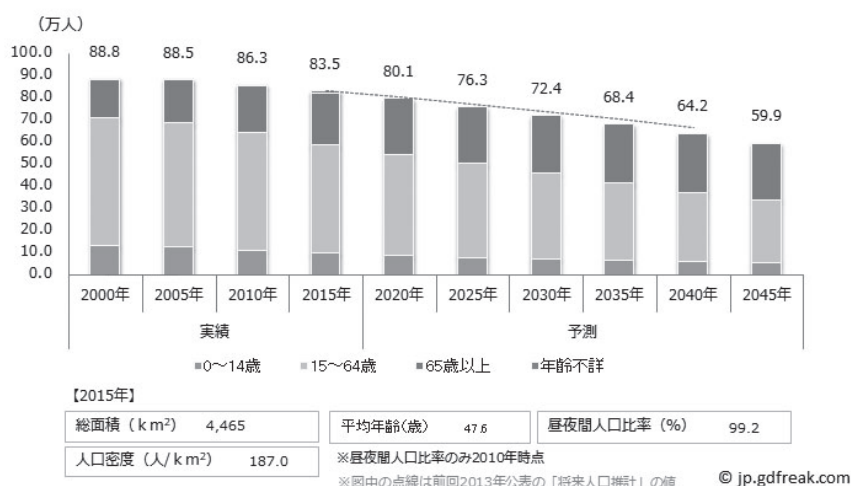
〈提案要旨〉

本県教育委員会では、平成29年3月に「教員の多忙化改善に向けた取組方針」を策定し、部活動指導の負担軽減を図るため、部活動の適切な休養日の設定や外部人材の活用促進などの改善方策を講じてきた。また、翌年の3月には、運動部活動を一層充実させていくために「やまなし運動部活動ガイドライン」を策定し、地域や学校の特色を生かした取り組みを行うことを目指している。

本連盟では、調査統計部が過去4年間にわたって、部活動指導員についての実態調査を行ってきた。その調査結果をもとに、本県における部活動指導員において、部活動指導員の有用性や今後本格的に導入される週末部活動の外部移行について望ましい方向性を探っていききたいと思う。

1 はじめに

山梨県の人口推移



2021年5月における山梨県の推計人口は802,773人となり、2000年の895,646人をピークに減少傾向が続き、近年では年間5千人以上の減少が続いている。また、2040年には650,000人を下回るとの予想も出されており、関東中学校体育連盟に加盟している都県と比較しても人口規模の違いによる様々な環境格差を感じずにはいられない。

加えて、少子高齢化が一層顕在化しており、本連盟に登録している生徒数の減少は著しいものがある。

こうした状況下にあっても、本県における学校部活動は、教員の弛まぬ努力によって堅持され、輝かしい実績を残してきた。しかしながら、時に専門的な指導を求められる部活動の現場において負担感を感じている教員が少なくないのも事実である。教員の負担感軽減だけでなく、時代のニーズに応えつつも部活動の一層の充実を図るべく部活動指導員の有効的な活用方法と週末部活動の地域移行について模索していきたい。

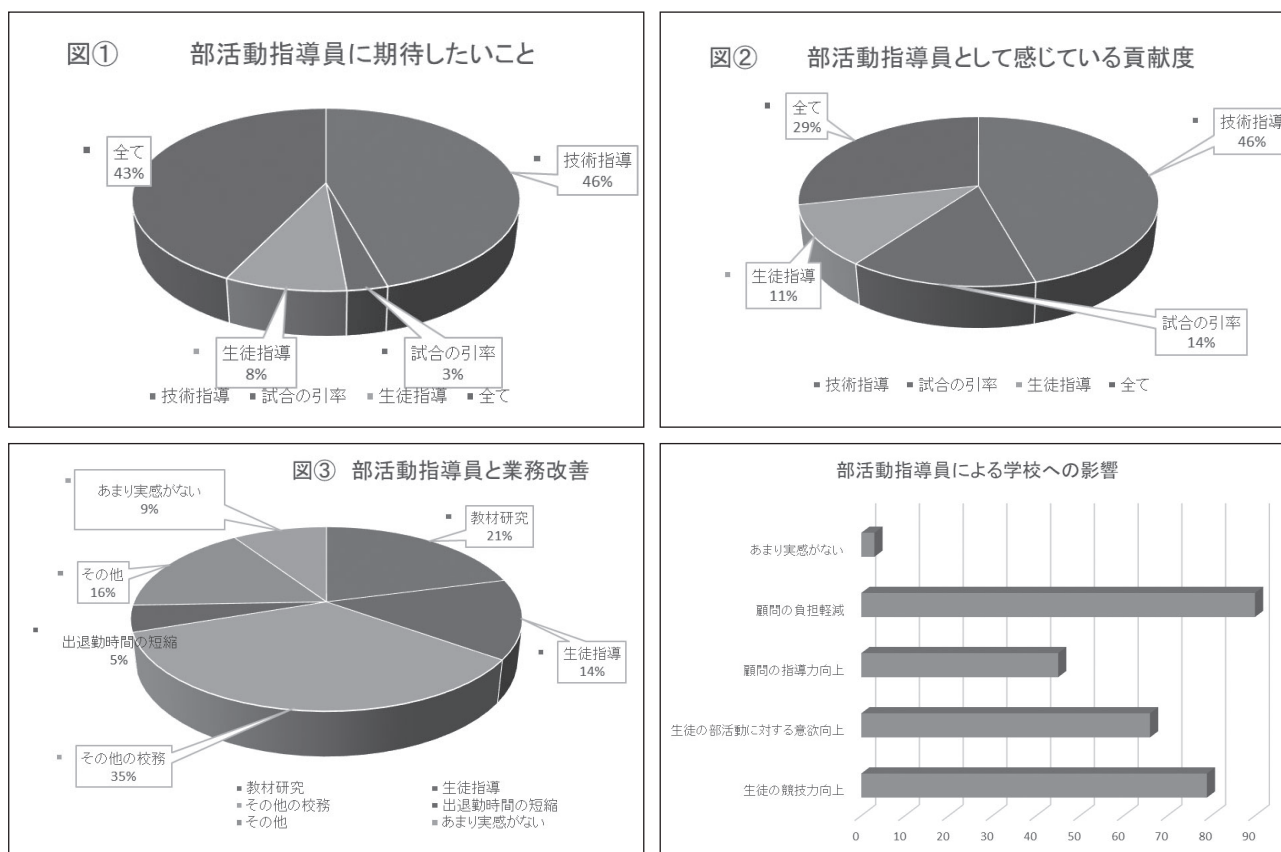
2 部活動指導員に関する山梨県の現状と調査結果

令和2年度まで本連盟の調査統計部が、部活動指導員を任用した学校の運動部顧問・部活動指導員・生徒・管理職を対象にアンケート調査を実施してきた。

(1) 山梨県の現状 ※令和3年10月現在
(山梨県小中学校体育連盟加盟生徒数)

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
23,297人	22,558人	21,895人	21,456人	21,047人	20,845人
前年対比	-739人	-663人	-439人	-409人	-202人

(2) 調査結果



これまで様々な機会や地域で調査されてきた結果と同様に、本県でも部活動指導員に対する期待値の大きいことがわかった。

まず、専門性の高い種目に限らず、技術指導への期待感が大きいことが伺える。また、調査を行う課程で、引率や生徒指導に関しても部活動指導員に積極的に関わって欲しいという「要望」が学校現場の実情としても伝わってきた。

さらに昨年度は、調査対象を顧問教師や部活動指導員だけでなく、配置先の管理職にも広げることを試みた。その結果、顧問教師の負担軽減を期待される「好い影響」として89%もの管理職が回答し、学校現場が本事業への期待を寄せていることが明らかになった。

3 山梨県における部活動指導員活用事例

実地調査対象予定校

【甲斐市立玉幡中学校 なぎなた部】

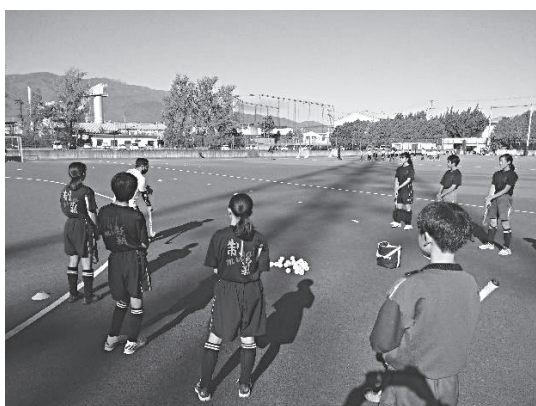
本県唯一の部である。2019年には、ジュニアオリンピックで個人が3位に入賞するなど輝かしい実績を残してきた。甲斐市の教育支援員でもある伊藤教子先生（保健体育科講師）が部活動指導員とし

て任用されてからは、平日の稽古だけでなく、週末の活動や武道館で行われる武道錬成大会、全国大会（ジュニアオリンピック）への引率等も行えるようになり、指導の幅が一層充実した。そのことにより、生徒にとって様々な活動機会が担保され、なぎなたという武道の魅力に迫ることができるようになった。武道の授業においてもなぎなたに体験することが可能となり、本校の特色ともなりつつある。

さらに、長年地域に根差した活動を行ってきたことで、保護者への信頼も厚く、なぎなた部の活動そのものへの期待が非常に大きいことが伺えた。また、各種イベント等へ積極的に参加し、競技そのものの普及発展にも大きく貢献してきた。事実、卒業生の多くが進学先の高校で活動を継続し、高体連に加盟している部が増加していることも明るい話題となっている。



【南アルプス市立白根御勅使中学校 ホッケー部】



1986年に開催された「かいじ国体」を契機に、南アルプス市白根地区（旧白根町）にホッケー専用フィールドが完成した。この頃から、地域の特色あるスポーツ活動として一層認知され、小学生から身近なスポーツとして親しめる環境作りが継続して行われてきた。また、現在はNPO法人が設立され、本校の部活動指導員の派遣も行うなどの取り組みがされている。

自身も本校の出身者であり、保護者としても携わられてきた土橋明さんが5年にわたり指導を継続してこられた。その間、顧問教師と連携し「選手である前に中学生として一人の人間である」ことを念頭においた人格の形成にも尽力してきた。その結果、学校だけでなく地域からも部活動の在り方が大きく評価され、名実共に本県を代表する部活動の一つとなった。今夏には男女揃って全国大会に出場し、女子はベスト8に入るなど輝かしい実績も残した。

4 まとめと今後の課題

本県で部活動指導員を導入している学校において、指導員が大会引率まで行っている部は限定されている。顧問や指導員双方の期待する主たる関わり方が、「専門的な指導」にあり、家庭との連携や生徒指導、生活指導については教員が果たすべき役割との認識が依然として根強いからだと考える。また、引率業務に関する責任を重く感じているケースもあったように感じた。しかしながら、週末の練習等については、指導員に任せられることで教員の多忙化解消が実現している事実は大きく評価したい。特に育児がある世代の教員や介護等を必要としている家族を抱える教員にとっては、家族と過ごす時間を以前よりもてるようになったとの声が聴けたことにより、ストレスが大きく軽減されていることがわかった。

また、今回実地調査を行った各校のように、非常に専門性の高い競技については、指導員が部活動に携わることで生徒がそれぞれの競技の魅力に迫ることができている。こうしたことから多感な中学生年代の子どもたちにとって、部活動が有意義な時間となっているといえる。また、多様化が一層加速する現代社会において、子どもたちにとって選択肢を広げることに直結しており、豊かなスポーツライフの実現にはこうした取り組みが根底に不可欠であるとの思いに至った。さらに、地域に縁のあるスポーツに親しむことで、改めて「ふるさと」の魅力を感じたり、郷土愛を育むことに繋

がっていったりしていることも共有しておきたい。

その中で、白根御勅使中のホッケー部は、令和5年度から本格実施される地域移行のモデルとなる活動といえるのではないだろうか。週末だけ指導者が変わることで、戦術的な内容をどのように共有すればよいか不安を感じている教員が多い中、理想的な形で指導員の任用が行われており、非常に実用的で実態に即しているとも感じた。いわゆる顧問教師ではない指導員が、地域移行に関わって橋渡しの役割を果たすことができた時、一層多様な価値観を受容できる社会の創生にも新たな部活動の在り方として寄与できるはずだ。

一方で、専門的な指導には関心があるが、引率等の責任を負えないとの思いを有している指導者は、外部指導者（本連盟が規定する指導者）に留まるケースが多く、学校側の要望があったとしても指導員にはなりたくないという現状も浮き彫りになってきた。さらに、本任用事業を今後も継続していくためには、県と各自治体の予算計上が絶対的に必要不可欠である。予算となる源泉をどこに求めるかということも課題ではあるが、いかにこの事業が有用で、本県におけるスポーツ・文化振興の一旦を担っているかを様々な機会に訴えていかなければならない。同時に、長年にわたって部活動が果たしてきた教育的な価値や意義を再認識し、子どもたちにとって部活動という環境を残せるようにしていかなければならない。部活動指導員とは、その切り札にさえなり得ると考える。

また、今夏開催された東京オリンピックの結果を踏まえても様々な種目で日本人選手が活躍し、脚光を浴びた事実を考えれば、これまでの学校体育や部活動が担ってきたことの意味を正しく評価すると共に、中学生年代までの子どもたちが様々なスポーツに親しみ、体を動かすことの楽しさに気づいていく機会を部活動が保証してきたことを再評価すべきではないだろうか。

最後に過去4年間の統計からも様々な立場の人が本事業の継続、或いは拡充を希望している。こうした現状を踏まえると、大会結果からだけでは見えない指導員の方々が根差して下さったものが何かを評価する制度の確立も本事業の存立を確かなものにしていく手立てのようにも思う。

山梨県小中学校体育連盟 研究部・調査統計部

岡山県における地域部活動の推進に向けて

岡山県中学校体育連盟 副理事長

岡山市立岡山後楽館中学校 安田 洋章

〈提案要旨〉

令和3年1月、持続可能な部活動と学校の働き方改革の実現に向けて、全国各地域において、休日の部活動の段階的な地域移行や合同部活動等の推進に関する実践研究について、スポーツ庁から「地域運動部活動推進事業」が公募された。これを受け、岡山県においても、岡山県教育委員会と岡山県中学校体育連盟が連携をして本事業の在り方について検討している。この報告では、「地域部活動」の実施の経緯や取り組み、赤磐市立磐梨中学校の事例を紹介し、推進に向けての参考に供したい。

1 はじめに

岡山県中学校体育連盟は、166校の中学校をもって構成し、6地区を置いている。各地区に支部（14支部）を組織している。また連盟は、2研究部（調査研究、ダンス）、17専門部が置かれている。また、本連盟が主催する競技会は、岡山県中学校総合体育大会と岡山県中学校秋季体育大会の2回である。

本連盟では各種会議において、運動部活動についての議論が行われている。新型コロナウイルス感染症対策、熱中症対策、気象・自然災害における対応といった大会運営上の諸問題やリスクマネジメントの在り方など幅広い課題を取り上げている。

今回、本稿で取り上げている「地域部活動」については、令和3年度から岡山県教育委員会と岡山県中学校体育連盟が連携をとりながら協議を重ねている。

この報告では、岡山県・岡山県中学校体育連盟のこれまでの取り組み状況、岡山県赤磐市立磐梨中学校の事例紹介を通して、「地域部活動」の推進に向けての参考に供したい。

2 岡山県の取り組み

（1）岡山県の取り組み

平成30年3月の国のガイドライン発表を受けて、平成30年9月に「岡山県運動部活動の在り方に関する方針」において①適切な運営のための体制整備②合理的でかつ効率的、効果的な活動の推進③適切な休養日等の設定④生徒のニーズを踏まえたスポーツ環境の整備⑤学校単位で参加する大会等の見直し⑥安全管理と事故防止について、が示された。

そして、平成31年・令和元年に「県方針実践モデル推進事業（運動部）」が実施された。令和2年度には「方針実践モデル校事業」として、

- ・総合型地域S C等との連携（中学校1校）
- ・合同部活動（中学校2校）
- ・エビデンスに基づいた運動部活動（中学校1校、県立高等学校3校）

の実践事例が報告された。

令和3年度から、国の委託事業として「地域部活動推進事業」を実施、岡山県においても岡山県地域部活動推進委員会が設立された。委員は、学識経験者、学校体育連盟代表、スポーツ団体代表、学校文化連盟、文化団体、中高校長会、PTA、事業委託市町村教育委員会、岡山県行

政・教育委員会関係者である。

「休日部活動の段階的な地域移行の実践研究」として2中学校において、令和5年度からの休日の部活動の段階的な地域移行を目指してモデル事業を実施する。また、「合同部活動の推進の実践研究」も1市3校で実施する。

岡山県中学体育連盟からは、会長、理事長が地域部活動推進委員会や委員会内にある運動部会に委員として参加している。

(2) 岡山県中学校体育連盟の取り組み

岡山県中学校体育連盟では岡山県教育委員会と連携をしながら部活動や大会にかかわる事業を推進してきた。

岡山県の大会運営においては少子化・学校数の減少により、合同チームの数も増加している。令和3年度秋季地区大会軟式野球合同チーム数は、県内で25チーム56校に及び、他競技においても今後増加が予想される。また、教員の負担軽減や大会運営の在り方についても検討を重ねているところである。

本年度より、「地域部活動推進事業」が実施され、県中体連においても諸会議で周知・説明を行い、各地区や専門部より意見聴取をしている。例えば、

- ・「どのような形で地域への段階的な移行がなされていくのか」
- ・「教員の部活動へのかかわり方はどのような形になるのか」
- ・「大会参加規程と地域部活動の関連はどうなるのか」
- ・「運営費や保険の問題はどのように対応していくのか」

といった内容も出てきており、岡山県中学校体育連盟としても現状を把握しつつ、岡山県教育委員会と情報交換をしながら対応を検討していく予定である。

3 赤磐市立磐梨中学校の取り組み

(1) 赤磐市の概要

ア 地域の概要

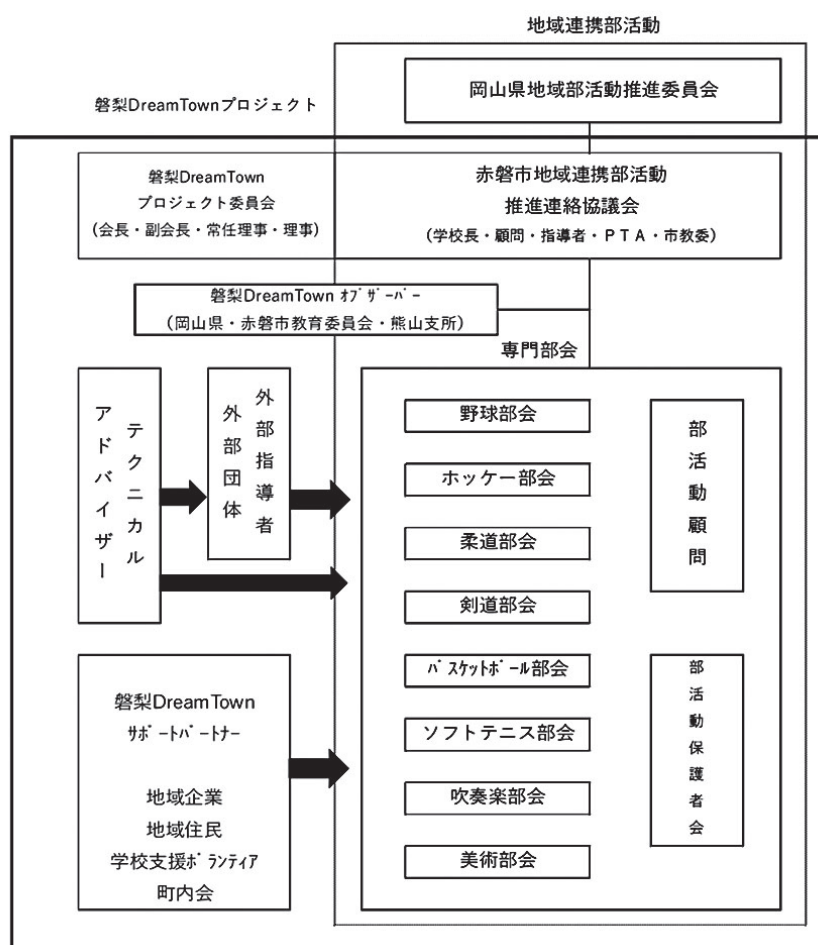
赤磐市は岡山県の南東部に位置し、東部には吉井川が流れ、中央部から南部の平野には市街地と田園地帯が広がり、北部は丘陵地となっており、豊かな自然と文化遺産に恵まれている。平成17年に山陽町、赤坂町、吉井町、熊山町が合併して誕生した、人口43,852人（令和3年4月1日現在）、総面積209,36平方キロメートルの都市である。「人“いきいき”まち“きらり”」をキャッチフレーズに、活力と個性あふれる、新たなまちづくりを目指している。市内には中学校5校、小学校12校がある。磐梨中学校は、全校生徒204名（令和3年5月1日現在）である。

イ 赤磐市スポーツ推進計画

赤磐市では、国の「スポーツ振興基本計画」及び「岡山県スポーツ推進計画」に基づいて「赤磐市総合計画」の部門計画として「赤磐市スポーツ推進計画」を策定している。現状と課題において、地域のスポーツ関係団体と学校の連携、中学校の運動部活動の今後の課題が示されている。

(2) 赤磐市立磐梨中学校の取り組み

ア 組織図



上記は、赤磐市立磐梨中学校の実施体制の組織図である。地域部活動モデル事業では、赤磐市地域連携部活動推進連絡協議会を運営団体としている。役員は退職校長（OB）、校長、PTA、学校支援ボランティア、地域指導者、部活動顧問、赤磐市教育委員会担当者等で構成されている。拠点校を赤磐市立磐梨中学校として、対象部活動は、バスケットボール、野球、柔道、ソフトテニス、ホッケー、剣道、吹奏楽の運動部6、文化部1の計7部活動としている。地域の関係団体は、少年野球、少年柔道、少年ホッケー、少年剣道としている。

イ 磐梨ドリームタウンプロジェクト

磐梨中学校の地域連携の推進による地域活性化プロジェクトは、「磐梨DreamTownプロジェクト」の名称で運営団体の中で検討が進められてきた。

磐梨中学校区は、保護者からの部活動に対する要望が高い。また、中学校の学校選択制度があり、部活動が学校を選択する一つの理由となっている。磐梨中学校の部活動には、熱心に活動している部活動や、長年にわたり地域の団体と連携しながら活動している部活動があり、活動を推進していく地盤はあった。そこで、事業を実施するにあたり、地域の団体と部活動の連携をきっかけにした地域の活性化を目指していくことを考えた。そして、最終的には休日の部活動における地域連携であるが、「完全に地域でできる部活動」「今まで通り、地域の方の協力を得ながら活動する部活動」「両方を併用する部活動」と段階的に移行していくイメージをもって運営を開始することにした。

現在では、磐梨中学校のホームページにチラシを掲載し、サポートメンバーを募集したり、指導者登録フォームを作成したりして、中学校と地域が連携して活動を推進している。

磐梨 DreamTown プロジェクト

磐梨中学校の地域連携の推進による 地域活性化プロジェクト

7月20日！ いよいよ新チームから地域連携部活動がスタート

ごあいさつ

皆さまには益々ご関心のこととお察し申し上げます。さて、この地（磐梨）の中学校の地域連携推進プロジェクトは、磐梨 DreamTown プロジェクトを推進する運びとなりました。この活動は少子化の影響を受けつつある磐梨中学校の地域に根ざして、地域の皆さまの御協力をお願いいたします。地域活動を中心として、部・種別・種別のバランスの取れた部活動を推進することでの地域活性化を図るとともに、地域を元気にし、よりよき未来の磐梨の発展を推進することを目的としています。そして、この活動が中学校と地域とを結びつける重要な役割を担うことと、お力添えをお願いいたします。誠にお願い申し上げます。

磐梨 DreamTown プロジェクト
会長 田上 肇

磐梨 DreamTown 7月のイベント

磐梨中学校の部活動向上 協力校

人の繋がりが、町が明るく元気になる

プロジェクトの概要

地域部活動の指導

- 土日の部活動の支援指導
- 仲間を大切にすることを習得
- 磐梨ならではのリーダーの育成
- ふるさとを愛する心を習得

学校行事・イベントの交流

- 磐梨感謝祭の連携
- ボランティア活動
- 地域行事への参加・協力

サポートクラブの結成と応援

- 大会や試合の応援
- 試合スケジュールの告知と応援
- 活動のための資金援助
- 練習会の開催

磐梨 DreamTown プロジェクト委員会

会長 田上 肇 (元磐梨中学校長)

副会長 森定 忠之 (元中学校長)

常任理事 平尾 豊 (元豊田小学校長)

河本 和三 (磐梨地区連絡 指導員)

富岡 佑弥 (磐梨中学校PTA会長)

出針 英 (磐梨中学校校長)

監修指導員 3 名

磐梨 DreamTown 7月のイベント

サポートクラブに登録して
磐梨中学校の応援をお願いします

具体的な活動

- 中学生の大会や練習試合等の見守り応援
- 個人や団体からの活動資金援助
- 活動資金の募集
- 学校行事や地域行事への交流

下記連絡先で連絡を下さい

事務局 赤磐市立磐梨中学校内 磐梨 DreamTown プロジェクト委員会
〒709-0704 赤磐市伏見149番地 TEL 086-995-0004 FAX 086-995-2802

ソフトボール部
部員数 18名 (男子18名・女子0名)

指導員 3名

磐梨中学校ソフトボール部は、今年からソフトボール部として4年連続で活動しています。

ソフトボールは、またも暑い中で練習も大変です。暑さにも負けず、汗を流しながら、個人の成長だけでなく、チームの成長を目指しています。今大会は、練習から試合まで、しっかりと練習に取り組んでいます。

練習は、1本1本、丁寧に練習し、チームワークを大切にしています。また、試合でも、練習から試合まで、しっかりと練習に取り組んでいます。

野球部
部員数 18名 (男子18名・女子0名)

指導員 4名

磐梨中学校野球部は、今年から野球部として4年連続で活動しています。野球部は、今年から野球部として4年連続で活動しています。野球部は、今年から野球部として4年連続で活動しています。

野球部は、今年から野球部として4年連続で活動しています。野球部は、今年から野球部として4年連続で活動しています。野球部は、今年から野球部として4年連続で活動しています。

バスケットボール部
部員数 18名 (男子18名・女子0名)

指導員 3名

磐梨中学校バスケットボール部は、今年からバスケットボール部として4年連続で活動しています。バスケットボール部は、今年からバスケットボール部として4年連続で活動しています。

バスケットボール部は、今年からバスケットボール部として4年連続で活動しています。バスケットボール部は、今年からバスケットボール部として4年連続で活動しています。

サッカー部
部員数 18名 (男子18名・女子0名)

指導員 3名

磐梨中学校サッカー部は、今年からサッカー部として4年連続で活動しています。サッカー部は、今年からサッカー部として4年連続で活動しています。

サッカー部は、今年からサッカー部として4年連続で活動しています。サッカー部は、今年からサッカー部として4年連続で活動しています。

バドミントン部
部員数 18名 (男子18名・女子0名)

指導員 3名

磐梨中学校バドミントン部は、今年からバドミントン部として4年連続で活動しています。バドミントン部は、今年からバドミントン部として4年連続で活動しています。

バドミントン部は、今年からバドミントン部として4年連続で活動しています。バドミントン部は、今年からバドミントン部として4年連続で活動しています。

卓球部
部員数 18名 (男子18名・女子0名)

指導員 3名

磐梨中学校卓球部は、今年から卓球部として4年連続で活動しています。卓球部は、今年から卓球部として4年連続で活動しています。

卓球部は、今年から卓球部として4年連続で活動しています。卓球部は、今年から卓球部として4年連続で活動しています。

柔道部
部員数 18名 (男子18名・女子0名)

指導員 3名

磐梨中学校柔道部は、今年から柔道部として4年連続で活動しています。柔道部は、今年から柔道部として4年連続で活動しています。

柔道部は、今年から柔道部として4年連続で活動しています。柔道部は、今年から柔道部として4年連続で活動しています。

空手部
部員数 18名 (男子18名・女子0名)

指導員 3名

磐梨中学校空手部は、今年から空手部として4年連続で活動しています。空手部は、今年から空手部として4年連続で活動しています。

空手部は、今年から空手部として4年連続で活動しています。空手部は、今年から空手部として4年連続で活動しています。

跆拳道部
部員数 18名 (男子18名・女子0名)

指導員 3名

磐梨中学校跆拳道部は、今年から跆拳道部として4年連続で活動しています。跆拳道部は、今年から跆拳道部として4年連続で活動しています。

跆拳道部は、今年から跆拳道部として4年連続で活動しています。跆拳道部は、今年から跆拳道部として4年連続で活動しています。

柔術部
部員数 18名 (男子18名・女子0名)

指導員 3名

磐梨中学校柔術部は、今年から柔術部として4年連続で活動しています。柔術部は、今年から柔術部として4年連続で活動しています。

柔術部は、今年から柔術部として4年連続で活動しています。柔術部は、今年から柔術部として4年連続で活動しています。

図 磐梨DreamTownプロジェクトの案内（磐梨中学校HPに掲載）

4 まとめ

本稿では、岡山県における「地域運動部活動」の推進状況と、赤磐市立磐梨中学校の取り組みを紹介した。磐梨中学校の設立経緯や運営体制を明らかにすることができた。学校や地域の活性化、生徒たちのより良い成長のために、部活動の新たな方向性を示していくことは重要である。岡山県中学校体育連盟においても、岡山県教育委員会、実践校、地区・専門部と情報交換や情報共有を進めるとともに、国や日本中体連の動向を注視する必要がある。そして、今後は「地域部活動」や「合同部活動」の諸課題を中体連の組織として検討していく取り組みが必要である。